

発達障害児者地域生活支援モデル事業プロジェクトチーム

取組期間：令和2年7月～3年3月

報告書記載者：札幌市自閉症・発達障害支援センター西尾 大輔

代表：札幌市保健福祉局障がい保健福祉部 神田 至絵

令和2年度の重点取組

- ・ 8050問題など中高年のひきこもりケースについて、地域包括支援センターと札幌市自閉症・発達障害支援センターで協働した事例を実施することで、タイプ別の介入方法や支援の方向性をまとめる

活動概要

- ・ 年3回、発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会を開催
 - 事業運営について、事例報告会、ひきこもり類型別支援の方向性チャート作成
- ・ 年2回、地域包括支援センターを主な対象とした研修会の実施
 - 協働事例の検討、報告などを通して関係機関との連携のあり方を学ぶ
- ・ 年1回、CRAFT トレーナー兼スーパーバイザー Roozen 博士のスーパーバイズ
 - 協働事例での CRAFT の適用について。家族のニーズに合わせた対応が必要
- ・ 7～12月、地域包括支援センターとの協働事例の実施

抽出された課題

- ・ 両親が高齢なため本人の生育歴や行動特性など情報収集の聞き取りが難しい
- ・ 本人ニーズがないケースでも、地域生活リスクがある場合の介入法が必要
- ・ 未診断ケース、50～60歳までのケースに対応する福祉サービスが少ない
- ・ ひきこもり類型別チャートを作成したが、活用には至っていない

課題解決に向けた次年度の取組予定

- ・ ひきこもりケースは障害福祉だけの問題ではないため、他領域をまたいだ支援体制を構築する必要があり、ケースを俯瞰してみられるコーディネーター役が必要と考える。このコーディネーター役を入れて、いくつかのタイプのひきこもり支援の実践をすることで、支援の好事例を検討していきたい。